

『SSHフィールドワーク③（地学分野）』を開催しました

10月11日（土）、弘前大学教育学部 准教授 田中 浩紀 氏をお迎えして、SSHフィールドワーク③（地学分野）を開催しました。本プログラムは、青森県西海岸の地層観察、化石採集・観察などを通して、青森県の自然に対する理解を深めながら、地学領域の科学的な見方や考え方を養うことを目的に開催しました。1、2年の希望生徒17名が参加し、本校の教育課程にはない地学の領域について興味・関心を高め、知見を広げる貴重な機会となりました。

午前は、鯨ヶ沢町の七里長浜海岸で地層の観察を行いました。主に、鮮新世前期（約530万年前～約360万年前）の舞戸層と中新世中期（約1,600万年前～約1,160万年前）の田野沢層という地層の観察を行いました。傾斜不整合、基底礫岩、波食棚、海食崖などの特徴的な地層を観察したり、クリノメーターを用いて地層面の走行と傾斜の測定を行いました。その後、深浦町田野沢の大戸瀬駅付近の海岸に移動し、約1,800万年前から1,500万年前に堆積した砂岩が波によって浸食形成された千畳敷海岸での観察を行いました。ここは、同じ田野沢層の地層ですが、有孔虫などの多くの微化石を含むという特徴があります。有孔虫や大型のコケムシ類、二枚貝化石などの化石を観察、採集することができました。

午後は、弘前大学教育学部の実験室に移動し、「田野沢層（大口瀬）産 化石有孔虫の観察」という演題の講義の後、田野沢層で採取され粒度ごとに分けられたサンプルから、有孔虫の微化石を分類し、双眼実態顕微鏡や電子顕微鏡で観察を行いました。サンプルからは、比較的大きくルーペでも観察できるオパキュリナや、光学顕微鏡でないと識別できないノニオン、クウインケロキュリナといった有孔虫の微化石を採集、観察することができました。

活動後の生徒の振り返りでは、「地学分野のフィールドワークを受けて、地道ですがとても惹き付けられるような分野だと思いました」、「地層を見るときのコツや、地域の歴史を知ることができ、とても興味深かったです」等の所感が寄せられました。また、「青森高校では地学選択がないため、今回のフィールドワークが高校で初めて地学に触れる機会となった。中学校の時にも地層や化石の勉強はしたが、今回のフィールドワークでより深く、実際に体験しながら地学に触れることが出来て良かった」、「実際に鯨ヶ沢の地層や深浦の化石などを見たり、採取したりするうちに、地学はどのような学問なのか、そしてその楽しさに次第に気づいていけました」、「生物系の道へ進みたいと考えているが、地学にも興味が湧いたので、化石に関係した生物分野と地学分野の中間地点のような分野を研究してみることも選択肢として考えたいと思うようになった」等、地学領域に対する知見が広がったとの所感が寄せられました。

○講演の様子

